

# 保育学生の忙しいさ

松本園子

「お忙しいですか」「ええ、いろいろと」

などというやりとりが日常的になつてい  
が、「忙しい」ということをどんなふう  
考えたらいいのだろうか。

たしかに、私自身もいつも何かにせかせ  
かと追われ、忙しさをかこっている毎日  
ある。しかし、周りには仕事に、家事に、

育児に八面六臂の活躍をしている人が少  
なく、私の忙しさなど物の数ではない。

しかもそうした忙しさの渦中にいる人、あ  
るいはそれをくぐってきた人たちの言動に  
生活体験の重みに震うちされた鋭さ、豊か  
さを発見してうならされることもしばしば

である。

忙しいの意味はそれに向かうその人の姿  
勢によつて、その体験を取りこんで内面を  
太らせるものにもなり、むなく、そのエネ  
ルギーを消耗させるだけのものにもなる。  
いわばその主体的条件にかかっているよう  
に思われる。

× × ×

ところで、忙しさをこんな風に考えてみ  
ても、何とも忙しすぎると思うのは保育者  
をめざす短大生の生活だ。

私は短大の教師として保母養成にかかわ  
つて七年目になるが、勤め始めたころ時間

割を見てウヘッと驚いてしまった。朝から

夕方まで毎日ほとんど隙間なく授業がつま  
っている。さらに四〇日間の実習があり、

わずかの明き時間や放課後はピアノの練習  
におわれる。しかも大部分の学生は、毎日

朝から夕方まで（お喋り、居眠りがまじる  
にしろ）「真面目に」授業に出席している。

——まばらな講義すら何のかのとサボリが  
ちであった我が学生時代を思い、尊敬の念

すら覚えたものだ。  
授業がこんなに多いのは厚生省指定の保

母養成カリキュラムの制約が大きいことに  
よる。それに当然のことながら学校独自の

科目があるから一日に四科目、少くて三科目という日が続くことになる。大学設置基準や短大設置基準を見ると、一時間の講義に対しては二時間の準備又は学習を必要とする、とあるから一コマ二時間の講義を一日に四つ受けるとしたら、これはもう二四時間一睡もせずに食事もとらずにひたすら勉強しなくてはならない、という理屈になる。

こんなことはもちろん不可能だから彼女らは授業に出るのが精いっぱい、それ以上に自分で本を読んで学習を深める、などということはどうてい無理という受け身の立場に追いつまされる。そして、私自身も無理だとは思いつつ、あれこれ文献を紹介してはそのたびにむなし、気持ちになっているのだが……。

こんな状態については彼女らも大いに不満を持っていて、昨秋必要があつて学生生活についてのちょっとしたアンケート調査

をした際にも「学校の授業でがんばりがらめになっていて、自分でやりたいことが何もできない」と口々に訴えている。ちょうど夏休みの課題として皆が『エミール』を読んだあとだったので「ルソーだって、自由な活動が人間を成長させると言っているではありませんか」とかみついているものもあつた。

保育という仕事は大変な仕事だ。保育者は子どもたちに存分に楽しい生活を保障しつつ大事な心身の土台づくりをになつていかなければならない。だから科学的な知識と鋭い感性と、巧みな技術と、豊かな人間性と……様々なことがその資質として要求されている。

保母養成カリキュラムの一つ一つの科目は、その点からみればどれも必要に思える。のみならず、二、三不足のものすら思いつく。しかし、やみくもに詰め込めばそれで保育効果がある、というようなもの

ではないことは誰もが認めることだろう。まして、子どもの自主性、主体性を養うべき保育者ならば、自らがその専門性を自主的、主体的に獲得していかなければならぬだろう。

だとすれば、このような総合的な力をどのようにつけていくかについて、四年制大学での保育者養成ということも含めてもつと考へなければならぬだろう。

× × ×

こんなことを夏休み中のややのんびりした気分の中であれこれ考へているところへ、学生からの暑中見舞状が届いた。実習が素晴らしかった、ということをなかなか上手なイラスト入りで書いている。「忙しすぎるのではないか」などというこちらの心配をよそに、彼女らは学生らしいエネルギーでいろいろなものを吸収しているようでもある。

(淑徳短期大学)